

第 12 回 公 社 等 経 営 評 価 委 員 会 議 事 要 旨

1 日 時：平成 22 年 2 月 19 日（金）16：00～17：45

2 場 所：兵庫県公館 第 2 会議室

3 出席者：

(1) 委員側

佐竹委員長、田中委員、前田委員、茂木立委員、吉田委員

(2) 県 側

企画県民部長、企画財政局長、財政課長、新行政課長

4 議事要旨

平成 21 年度 公 社 等 経 営 評 価 委 員 会 報 告 を 受 け た 平 成 22 年 度 の 主 な 取 組 み に 関 し、 事 務 局 から 説 明。 其 の 後、 平 成 22 年 度 公 社 等 経 営 評 価 委 員 会 の 進 め 方 に つ い て 協 議。 内 容 は 次 の と お り。

- ・ 平成 21 年度の前半に県行政と密接な関連のある公社等の内、20 団体について個別ヒアリングを行い、提言を出した。そのフォローアップについては、（新行革プランの）3 年目の総点検を踏まえてどういう形で行うかは後日、事務局から提案があるが、提言を行わなかった 14 団体について、昨年は個別ヒアリングを実施してまで検討する必要がないだろうという結論だった。その後、議会等からの指摘もあるなど、提言を行わなかったことについて、どうだったかという話もある。

平成 22 年度において、事務局からは個別ヒアリングが未実施の 14 団体について、その内の特に課題のないと思われる 2 団体を除く 12 団体について追加ヒアリングを実施し、詳細な検討を行ってはどうかという提案である。

- ・ 昨年の事務局説明では、特に課題がある団体をピックアップし、個別ヒアリングまで実施して、提言を出すということだったが、今回の提案でほとんど全部の団体について個別ヒアリングをするということになっているのはなぜか。民間企業では、重点化するところとしないところで手法を変えて検討する。大事なのはヒアリングをすることではなくて、委員会提言が本当に実施され、成果をあげているかどうかフォローアップすることではないか。
- ・ 昨年に当委員会の場で、特に 20 団体は重要であり、課題があるというコンセンサスのもと、個別ヒアリングを実施し、提言したが、本当にその団体だけでよかったのかという話もある。
- ・ 委員会提言を行わなかった団体の中には、県議会の方から、もっと指摘があっけしがるべしという団体もある。

- ・ 委員会提言を行わなかった団体について、今後網羅的に個別ヒアリングを実施する、しないのという選択肢の他、但馬空港ターミナル(株)等は、但馬空港という県事業の話であり、公社等の問題ではないと割り切るならば、個別ヒアリングまで実施する必要はない団体があるという考え方もある。
- ・ 今回の事務局案では2団体が個別ヒアリングの対象外としているが、その理由も重要。
- ・ ある程度細かいところまで見ていかなければならないという役割を当委員会が担っているのであれば、検討する意味がないことが明確な団体は別だが、そうでないならば、検討することはおかしな話ではない。
- ・ 今まで個別ヒアリングを実施した団体は、とにかく急ぐもの、重要なものを個別ヒアリングしたという感覚。「公社等経営評価委員会」という名前になっているところでは、大体はある程度は評価した方がよい。
また、当委員会で検討するというところに、公社等という大きな括りのものを全体的に見直すという意味があるのではないかと認識している。
- ・ 公社等経営評価委員会というのは、そもそもは毎年、決算なり、あるいは経営状況を踏まえて点検・評価をするというのが最も基本的な役割。ただ、初年度ということで、特に重要な団体について、集中的に個別ヒアリングをして、提言を行ったが、その効果は非常にあった。それならば、どこの団体も、一通り当たった上で、次のフォローアップへの繋げていきたいというのが事務局提案の趣旨の一つ。ただ、公社等経営評価委員会が必ず個別にヒアリングを実施しなければならないということはなく、特に重点団体とした20団体のフォローアップに速やかに特化するという選択肢もある。
- ・ 今一度、残りの14団体について、委員会での取り上げ方(団体の課題の濃淡、個別ヒアリングの必要性等)を整理してもらいたい。
- ・ 整理の上は、委員長と事務局の間で協議し、4月以降の委員会の進め方は委員長に一任する。